

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 鳥海)

事業所番号	0690700281		
法人名	医療生活協同組合やまがた		
事業所名	グループホーム和楽居		
所在地	鶴岡市日枝字海老島63番5		
自己評価作成日	令和 2年 1月 15日	開設年月日	平成 29年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

希望が出た場合に、単に禁止するのではなく、安全に希望を叶えるにはどうするかを考えて対応している。天気の良い時期は日常的なケアに散歩を取り入れ、月一回程度は外出レク(外出+昼食を食べて帰ってくる)を行い、外出の機会を作るようにしている。普段の食事は手作りにこだわり、入居者様と職員と一緒に食事作りを行っている。また、行事食等でうなぎ、おせち、寿司、ラーメンなどの出前を頼むこともあり、食の楽しみを大切にしている。2019年8月より、歯科衛生士を1名配置し、口腔ケアに力を入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 2年 2月 4日	評価結果決定日	令和 2年 3月 2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いや意向を大切にしながら役割や活躍の場面を作り、生きがいを持って毎日生活出来るよう理念に沿った支援に取り組んでいます。手作り料理や外食・出前を楽しみにし、その人のスタイルに合わせた入浴で清潔さを保ち、ボランティアや保育園児の訪問は笑顔が見られるひとときとなっています。元気な利用者が多く、レクリエーション活動や食事作りの手伝い、近所への散歩やドライブ外出など一人ひとりが楽しみを持ちその人らしく生活しています。信頼関係を築きながら利用者が安心して暮らせるよう安全に配慮し職員全員で支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	タイムカードの上に理念を掲示し、出勤前に各自一読してもらうようにしている。	理念のタイトルとして「尊厳と人権、その人らしさ、笑顔と喜び、居場所づくり、地域との関わり」を掲げ共有している。毎日の生活の中で利用者の思いに添って活躍の場を作りながら生きがいを感じられるよう支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	海老島町、城南町の町内会長に運営推進委員をお願いしている。1か月に1回もしくは2か月に1回の歌のボランティア、行事の時のひとみ保育園児の訪問は継続している。また、天気の良い日には散歩で地域に出ている。	近接する法人病院で行う法人全体の夏祭りや健康祭りに参加し、地域住民や様々の人達との交流を行っている。歌のボランティアや敬老会・クリスマス会での保育園児の訪問は笑顔で過ごせる楽しい時間となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設前の説明会や、運営推進会議内で、認知症が疑われる見慣れない高齢者が歩いているなど、どう対応したら良いか分からない場合、和楽居に連絡をもらっても良いと話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を開催している。運営推進会議には、町内会長・市役所職員・入居者・入居者家族に参加していただいている。その中で意見をいただいている。	利用者状況や事業所行事・活動について、ヒヤリハットや事故、身体拘束のない取組み等の報告を行っている。委員より事故や感染症、災害対策等について意見やアドバイスをもらい、部門会議で検討して運営に活かしている。委員の出席率が低いことが課題となっている。	開催期日や時間を検討し、より多くの委員に参加してもらい、運営推進会議を通して地域との連携をすすめることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月2回介護相談員訪問の受け入れを行い、入居者の希望の聞き取りや、施設内の様子についての客観的な意見をもらい、改善に活かしている。また、介護相談員と市役所の担当者から運営推進会議へ参加していただいている。	市担当者とは連絡を取り合い情報や意見交換を行い連携に努めている。介護相談員の月2回訪問では利用者との会話内容や衛生面の気付き等について意見やアドバイスをもらい支援に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束廃止指針に基づき、身体拘束をしないケアを行っている。外部研修や、法人介護部での身体拘束廃止学習会に参加している。開設以来、身体拘束なし。	法人介護部身体拘束学習会や外部研修に参加して伝達講習を行い、身体拘束のないケアに職員全員で取り組んでいる。また毎週水曜をカンファレンス(検討会)日として離脱願望や不穏行動、言葉遣い・転倒など事例をあげて話し合い実践に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせて、虐待防止についても学習会を行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設としては学習の機会が作れず、個人任せとなっている。管理者は介護支援専門員更新研修で権利擁護について学習を行った。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に丁寧に説明を行っている。また、ADLの低下などで他施設を探してもらったケースがあったが、説明して理解をいただいた。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で入居者代表、家族代表より意見をいただいている。また、投書箱も設置している。家族面会や施設サービス計画書の変更時に家族からの要望等を聞くようにしている。	運営推進会議や面会・通院・プラン更新時、事業所評価アンケートなどで意見を聞いている。利用者の健康や暮らしぶりについての意見が多いが食事内容や風除室の整理整頓など部門会議で報告・検討し改善に努めている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回部門介護を開催し、意見提案を募っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護ラダーを行い、その際に面談も実施。個々に話をしている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修には業務として参加し、外部研修も案内を回覧している。また、月一回法人介護部主催の学習会を開催し、持ち回りで参加。事業所に持ち帰って伝達講習をしている。	年間計画に従い、毎月法人介護部会開催の学習会参加後や外部研修会受講後には資料をもとに伝達講習を行い、自身のレベルアップを図りながら全員が共有出来るようにしている。個人毎、年間目標を立て自己評価を行う共に面談により成果を確認し向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	介護職員交換実習に参加し、他法人のグループホームへ1日研修に行った。	山形県民医連の会議や研修会、介護部会に参加し交流を通してネットワークづくりを行っている。今年度は介護職員交換実習で他法人グループホームを訪れ、取組みの内容や違いを学びサービスの質向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査時と契約時に、本人の意向を確認している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の調査時と契約時に行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントと日常の会話の中で対応できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や身の回りのことはすべて職員が行うのではなく、自立支援の観点から、できることは自分でしていただいている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設入所すると、本人との関わりが減ってしまう家族も多いため、基本的に受診は家族対応とし、関わりを持つ機会を作っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	付き添いがあれば外出・外泊は自由。また、面会時間に決まりはあるものの、回数などについて制限は行っていない。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が中に入りながら、入居者同士のコミュニケーションを支援するように心がけている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院すると、一旦契約終了となる契約となっているが、、退院が決まった際には法人内外の施設との調整も含めて相談に乗っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の調査にて本人の意向確認を行い、入居後は居室担当を決めて、本人の意向を確認するようにしている。希望については、安易に禁止せず、安全に行うにはどうするか？という視点で検討している。	入居時のアセスメント(情報収集)や日々の関わりの中で、外出したい・畑仕事をしたいなど一人ひとりの思いや意向を聞きとっている。その記録を職員間で確認共有することでその人らしい生活ができるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に在宅で担当していたケアマネより情報提供をしていただくなど、連携に努めている。また、本人や家族から生活歴の聞き取りを行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを行い、把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、チームとして作成している。	利用者が役割を持ち出来ることをやってもらい、生きがいを持って暮らしていけるよう介護計画を作成している。カンファレンス(検討会)を毎月行い、思いや意向に対して安全に行うにはどうするかなど課題を全員で話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録を行い、計画見直し時に活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域資源の活用は進んでいない。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診の付き添いは家族対応としているが、受診時の状況報告書を作成している。また、日常的なやりとりは施設で行い、状態に応じて受診を早めてもらうなどの対応を行っている。</p>	<p>従来からのかかりつけ医に家族等の付き添いで定期受診し、対応できない場合は有償ボランティアを利用している方もいる。同法人訪問看護ステーションきずなからの看護師訪問(週1回)や協力医の往診もあり、連携して健康管理に努めている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションきずなと契約し、週1回の体調管理、確認をしてもらい、24時間体制で相談できる体制にもなっている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者が入院した場合、入院した病院の相談室や病棟看護師と情報交換をしている。また、協力医療機関は同一法人であるため、普段から連携を取りやすい。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前に、歩行ができなくなった場合や共同生活を行うことができなくなった場合は、別の施設へ移ってもらう必要がある事を説明している。また、「重度化対応・終末期ケア対応指針」を整備している。しかし、その部分について医療関係者と連携はできていないが、終末期の看取りなどの事例はない。</p>	<p>「重度化対応、終末期ケア(看取り介護)対応指針」はあるが、利用前に身体機能が衰えてきた場合は介護療養型施設を案内する旨を説明して理解をもらっている。状態に変化がみられた段階で家族等と移動先なども含め今後の方針について話し合い、共有しながら支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人介護部開催の緊急時対応学習会に参加した。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。2018年に防災マニュアルを法人統一に変更。現在、避難確保計画の作成中。今年度は地域の防災訓練に参加させてもらう予定であったが、不参加となってしまった。	10月に消防署立ち会いでの総合訓練を利用者も参加して実施し、同日緊急時対応学習会も行っている。3月には夜間想定避難訓練を予定し、防災及び非常時災害対応マニュアルを策定して火災・地震・風水害に備えている。また定期的に防災機器点検を行い、備蓄等も整備している。	訓練時の講評にもあげていたが、前回の目標達成計画でもある近隣施設や地域住民への協力要請を継続して取り組むことに期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人介護部の個人情報保護、プライバシー保護の学習会に参加し、日常業務に活かしている。3月に接遇の部門学習会を開催予定。	入居時に生活歴等の情報を把握して職員間で共有し人格を尊重した接遇に努め、親しくなっても言葉遣いには気を付けるよう指導している。また排泄や入浴など羞恥心を伴う介助にはプライバシーに配慮した対応を心がけている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な声かけをする場面で希望を聞き出すようにしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先することがないように、部門会議等で意思統一を図っている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装について支援が必要な方には職員が支援を行っている。出張美容室や床屋さんに来てもらい、散髪や白髪染めをしてもらっている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、片付けは職員と入居者が一緒に行っている。また、行事に合わせた食事の提供を行っている。	献立は職員が前年の資料を参考にしながら月毎交替で作成し、利用者と一緒に調理している。嫌いな物への代替え、とろみや塩分調整の必要な方への配慮、食事前の嚥下体操や食事後の口腔ケアにも留意している。また、たこ焼きパーティーやおやつ作り、出張ラーメン、回転寿司など楽しみ事も多く喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医よりトロミ使用の指示がある方や、減塩の指示がある方は対応している。また、食事の量も入居者ごとに調整している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助や声かけを行いながら実施している。2019年9月より、歯科衛生士を配置し口腔状態の把握や口腔ケアに力を入れている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ずつ排泄チェック表を使用して排泄間隔などの把握を行い、定時誘導、リハパン確認など、その人に合った支援を行っている。	全員の方が自分の意思でトイレに行っており、職員はさりげなく排泄の確認や介助に入ってチェックしている。出来る事の維持にむけて、家事活動や運動など下肢筋力をつけるリハビリを取り入れながら支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にヨーグルトを取り入れている。また、毎日水分摂取量を確認し、食事以外で1日1000ml飲むように支援している。運動はラジオ体操等の運動を毎日行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日、入浴時間は決めているが、外出や拒否があった場合には日にちや時間の変更、足浴を行うなどの対応をしている。	週2回を目安に入浴している。職員の見守りで一人で入られる方もおり、同性介助にも配慮して職員と1対1で会話を楽しみながら入っている。そこで得た情報は職員間で共有し、対応などを話し合いケアに活かしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な寝具を持参いただくなど、快適に眠れるように支援している。また、消灯時間は決めているが、眠りたい時間に寝ていただくようにしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から貰う薬の説明書を個人台帳にファイルし、いつでも閲覧できる状態にしてある。また、今年度中に薬についての学習会を予定している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、掃除など、その方が得意なことをしていただいている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雪がない時期には希望があった時に散歩を行っている。また、地域や法人の夏祭りへの参加や外出レクなどで、冬期間以外は月1回程度は外出する機会を作った。必要に応じて家族へ協力のお願ひもしている。	日常的には交替で散歩に出かけ、事業所前の畑仕事に行く方もいる。冬期間を除いて毎月のように外出企画があり、法人のリフト車を借りて皆で出かけ、回転寿司など外食もしてワクワクした気分を味わっている。また地域の夏祭りでは家族等の協力を得て、地元の方達とふれあい笑顔の一日を過ごしている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室に鍵のかかる金庫がないため、事務所の金庫にて保管をしている。ただし、どうしても手元に置きたいという方に関しては自己管理をしていただく場合もあるが、施設での責任は負えないと話をしている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お雛様やクリスマスツリーなど入居者様と一緒に飾り付けをしている。また、外出や行事の写真を壁に飾ったり、季節の飾り付けを行ったりしている。	ホールや廊下には季節に合わせた装飾や行事企画の写真などを掲示し、今年は利用者一人ひとりの抱負や願いを書いた絵馬が飾られ家族や面会者にも喜ばれている。歩行訓練の為に廊下等には物を置かないように整理整頓を心がけ、加湿器なども設置して温湿度管理しながら環境整備に努めている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットに和室があり、テレビやソファを置いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に使い慣れた家具等を持ってきてもらうように話している。別途料金がかかるが、こたつ、テレビなど電化製品を持ち込んでいる方もいる。私物持ち込みについて特に制限せず、居室内は自由に部屋作りをしていただいている。</p>	<p>ベッドや広めのクローゼット、加湿器を備え、寝具はリースで週1回リネン交換している。好きな手芸に励んだり、仏壇に手を合わせる事を日課にしている方など思い思いに暮らしている。各居室の廊下にはセンサーやナースコール・火災報知器に連動したライトが点灯し、安全安心に配慮している。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>段差なし。廊下には物を置かないようにし、歩行の妨げとならないようにしている。</p>	/	/